

教育長賞

堺市立 八田荘西小学校 六年

若山 空未

「だれもが安心して過ごせる社会」って？

私の考える「明るい社会」とは、「だれもが安心して過ごせる社会」です。最近は大れかが人を殺してしまったというニュースや戦争のニュース、また私たちに近い年代の話でいうといじめのニュースなどを見聞きすることがあります。そんなとき私は、被害にあった人やその家族の方はどんな思いをしているのだろうと想像します。単に「悲しい」というだけでなく、さらにもっともつと深くきずつき、それが一生続いていくかもしれないと思うと、だれ一人きずつく人もきずつけない人もいない、全員が安心・安全に暮らせる社会を実現していかなければならないと強く思いました。

このように考えるようになったのも、私自身が友だちとの間で、どうしたらいいかなあと思う体験をしたからです。

私に仲のいい友だちグループがあります。ある日そのグループの中の、ある一人の子に対してどう接するのが良いのか考えることがありました。グループなので、それぞれ思いがちがうし、だけどグループ全員が悪口を言ったり仲間外れにすることは絶対に

ちがうと思います。

私自身は今までも、もしいじめられる子がいたら、必ずその子の側につくようにしよう、絶対に一緒になっていじめようようなこととはしない、と思っていました。しかしいざ自分のグループの中で、いろいろな思いを感じるとどう動けばいいのか分からなくなることもあることが分かりました。

身の回りで起こっている日々の事件や戦争もきつとこういふことなのかもしれないと思います。きつとそれぞれの立場を聞けば共感できるようなこともあるかもしれない。それでも、やっぱりどんなときも自分の思いだけを貫き通そうとするのはちがうなと思います。私ならみんなが少しでも上手くいく方法を考える道を選びたいと思います。

今回「だれもが安心して過ごせる社会」について自分の中で考えてみて一番大事だと感じたのは、それぞれがしっかりと本音で向き合うこと（いやなことはいやと伝えること）、そしてみんながみんなの気持ちを思いやって日々過ごしていくこと、の二点です。

人と人との関係はなかなか正論だけではいかないことも分かりました。今後私も中学・高校・大学や社会人などと大きくなるにつれて、今よりもっと人間関係もより複雑になっていくと思います。その中でだれかとだれかの思いがぶつかったり、だれかがガマンしていたりそんなことが起こるかもしれません。自分がその当事者となることもあるだろうし、私の周りで起こるかもしれない。

そんなときはいつでも先の二点を思い出して、行動できる私でありたいと思います。私の周りで起こったときには、それぞれの思いを聞き、少しでもみんながうまくいく方法を考え、橋渡しできる私でありたいと思います。そして「だれもが安心して過ごせる社会」の実現に向けて、私にかかわるすべての人に安心して過ごしてもらえる私でありたいと思います。

